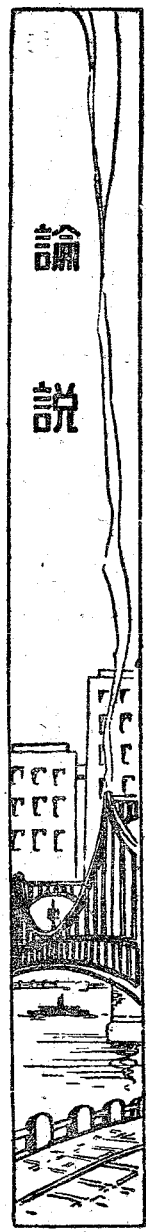

統制經濟の眞諦

奥井復太郎

戰時經濟の統制が全面的にも內面的にも强化されるといふ事に就いては何人も異議異論が無い。併し世上やゝもすれば今日の統制經濟そのものに就いて其の歷史的役割を輕視してゐるのでは無いかと思ふ節が少くない。勿論戰時統制經濟が戰時下に持つ云はゞ瞬間的な役割（本當はさうした考方すら間違つてゐると云はれても仕方ないのであるが）の重大さは充分認識してゐても、その大きな歷史的使命に就いて充分誰れもが之れを認識してゐると云ひ難い樣である。此の點に就いて少しく考へて見たいと思ふ。

自由主義的な考方といふよりは（廣い意味の）生活の自律性と云つた考方から所謂統制强化に伴ふ窮屈を重壓的に感じつゝ、これを戰時下といふ意味で甘受するといふ生活態度は決して少くない。從つて「戰爭が終れば」と云ふのが是等の傾向に屬する人々の一つの憧れとも云ふ可きものである。嘗て半轉業と云ふ事が唱えられ、事實さうした人々が商賣を數日休んでは工場に働きに出た。是等の人々の全部ではないが少くとも多くの一部分に於いて、さうした中途半端な生活がどの位繼續するものかといふ事に就いて見通しを訊ねられると大抵は、「まア二、三年……」と云ふ返事だつたと云はれる。さうして其の期間を辛抱すれば再び現況に立派に復歸が出來るといふ肚であるらしかつた。此の事が是等の人々をして今迄の商賣への執着を（事實上は非常に營業困難になりながらも）之れを斷念せしめなかつた原因であると共に、一方の新規の勤勞に就いては冷淡で一時的といふ觀念を持たせた理由だとも云はれてゐる。

是等の人々の時局認識の如何は別として、舊來の家業なり營業に離れ難い執着を持つ心理は同情出來る。所がさうした考方が吾々の生活觀念の別の方面にも著しく殘つてゐる事に氣がつくと聊か慄然たらざるを得ない。と云ふのは、前述した樣に、二、三年で戰爭が終れば元の生活——所謂自律的な生活、自由主義的な生活に戻れるのだといふ考方が各方面に少くない事である。果してかう云ふ考方でいゝのであらうか、さうした考方が當つてゐるのであらうか。「今日の窮屈な生活も、二、三年の辛抱である。戰爭中だから止むを得ないのだ」といふ考方は正しいのか。

よく識者の間にも「兎に角戰爭になつたんだから勝たねばならぬ」といふ意見がある樣にきく。果して「兎に角」で差支ないのであらうか。今次の戰爭がさうした「兎に角」といふ前置きをつけて考へられる樣な「さうでなくともあり得たのだ」といふ意味の考慮を許す樣な生まやさしい性質のものであるのか。「あゝしたならば」「かうしておいたならば」し

なくとも濟ませ得たといふ性質の事件なのであらうか。茲に第一の錯覺がある樣だ。

又論者は云ふかも知れない。「いや、さうした世界史的動きは必然だ。しかしそれが戰爭となつて現れるにも時期のよし惡しがある。もつと用意してからかゝる可きで、其の意味での時期が問題になる」と。それは同感である。確かに充分の用意を備えてやるに越した事はない。併し昭和七年前後の、あの瀰熟し過ぎた世相を見て、あれで充分用意しつゝあつたのだと云ひ切れる者が果して幾人あらうか。現に、世間に祕められてゐた陸海軍の血の滲む樣な訓練と用意とがあつて、開戰以來の大戰果をあげた時、世人の多くは「アッ!!」と云つたではないか。その事は如何に多くの人々が不用意であつたかを裏書してゐる。

今次の戰爭は「そうある以外にはあり得なかつた」性質のものと見なければならぬし、又かう見る事によつてのみ、今後の正しい生活態度を導き出し得るのである。

○

更に次に誤つてゐると思ふ事は、二、三年を以つて舊態に復するだらうといふ考方である。成程戰鬪はどう小休止を見るかも知れない。否、さうした考へ方が既にいけないのかも知れぬ、何故ならば今後いづれが勝ちいづれが仆れるか決まる迄、平和といふものは無いと迄云はれてゐるのだから。併し一歩讓つて假りに戰鬪が一小休止に入つたとしても、それで昔に歸つた、前に戻つたといふ氣持になつていゝものであらうか。若しさう云ふ氣持になつたとしたら滿洲事變から支那事變、更に大東亞戰爭に於いての尊い國民の生命身血を注いだところ、之れを無に歸せしめ空に歸せしむる結果となると云はねばなるまい。戰果をよく維持し得るのは、此の意味で戰爭そのものといふよりは戰後の如何にあるのだ。昔から

守成の難は創業にまさるといふ、歴史上の問題で「若しかうであつたならば……」といふ事は許されない事であるが、さうした想像を逞しうする事を一應許されるならば第一次歐洲大戰後の情況は正さに聯合國側の戰果の守成に徹したものと云へなかつた。之れが第二次大戰による獨逸の反擊となつて現はれてゐる。此の時になつて悔ひても既に及ばぬ事なのである。勿論、戰爭は力であるから戰ひ拔く力に限度はあらう。日露戰爭が奉天大會戰で終つた事に就いては當時の國內に異論異說があつたかも知れない。併し戰爭そのものが終つても他日に備ふるところのあるのとないのとでは非常な相違である。備へる所のものは、戰は未だ終らないと見るのであつて其處に守成の業が明白に認識されてゐる。反之、戰は終つたとして戰勝美酒に醉ふ者は守成の構を失つて最も危うい哉である。大東亞戰爭の結末は簡單な豫斷を許さぬ。勿論、大東亞共榮圈確立を其の必然的結末とするに於いては何人も他意を挾まぬとしても、之れを守成する事は實に創業の難に比してまさるとも劣るものでない。

此の時に當つて、戰が終れば舊態に復せるといつて前に述べた支那事變以前の奔放不羈の生活理想を回顧し、之れに憧れるようでは果してどうであらうか。吾々は戰後こそ更に苦しいと考へねばならぬのではなからうか。

○

又、統制體系の理念と稱せらるゝ全體主義（必ずしも西歐的意味のものでなく）そのものが唯々戰爭をする時丈けの掛聲なのであらうか。勿論、國民的一致團結が平時に於いても毫も感知し得なくとも一朝非常時となれば汪然として湧き出でゝ來る事は事實である。兄弟牆に相せめぐも一度家の大事となれば共に立つて家の爲めに働くといふのも事實である。併しそれだから非常時以外なら兄弟は仲が惡くてよいといふ理窟にはならぬ。平時と云へども國民的團結を弱める樣な自

壞作用があるならば極力、防止しなければならぬ。其の意味から云つても全體主義は過去の自由的個人主義に對する歴史的使命を以つて登場して來てゐる。從つて（戰爭自體が前述した樣に瞬時的現象でないと同樣に）全體主義自體も開戰で生れ閉戰で退場する性質のものでない。勿論、全體主義そのものの政策的具現は戰時と戰後とでは相違があらう。しかし生活理念としては之れが正しく殘るものと見なければならぬ。

戰爭が熄むと人々は昔の狀態に戻ると考へるが其の考方は又々從來の個人的飽慾の時代が再現するものとしてゐるらしい。筆者の最も恐れるのは之れである。殊に南方圏を我が經濟編制裡におく事から豐富なる物資が十二分に入手出來、その結果、前にも優して個人的生活が豐富になると考へてゐる。吾々の恐れるのは、かうした個人的贅澤感である。

成程、所謂政治的感覺の鋭い人々は云ふであらう。「民衆に希望を持たせなくては」と。又さうした民衆の希望は卑近で現物的で卽身的であつて必ずしも高遠高邁なものでないと。さうかも知れない。併しそれが口腹の慾を充し飽食暖衣放縱の生活に沈溺する事を意味するのか。個人の邸宅を飾り身邊を華美にし遊蕩にふける事を意味するのか。是等のものが戰時統制によつてのみ禁壓されてゐると見るのか。こゝで吾々は統制經濟の眞諦といふものを少しく親つて見たいと思ふ。

○

近來最も喧しく論ぜらるゝ樣になつたものゝ一つに生活指導とか生活合理化の問題がある。生活指導、殊に吾々は之れを消費生活の指導といふ意味に解釋してゐるが、此の意味の生活指導は近來の特色の一つと云つて差支あるまい。個人主義思想は消費生活の個人的解放を要求した。併し其の結果は個人の判斷による自由消費は必ずしも賢明であり厚生的ではなかつた。玆に於いて再び消費指導又は消費統制の問題が取り上げられるに到つた。例へば餘暇善導の如き健全娯樂の如

きそれであり、生活の全面的合理化の如きそれである。殊に國民體力の增强といひ、勞働力の倍養保全といひ、いづれも唯單に休養時間を增加する、賃銀を增す、娛樂機會を與へるといふ事では決して解決がつかなかつたのみならず、休日の翌日に事故が多かつたり、能率が上らなかつたり、缺勤が多かつたりする事は、所謂休養が毫も勞働力の能率化に資してゐない事を證明する。

生活合理化は勿論、戰時物資需給事情から說明せらるゝ事であり。しかし生活を合理化する事によつて時間的物資的に餘裕を生ずる事は極めて社會生活向上の點から云つて必要な事である。物資愛護の如きも從來の狹い個人的節儉とは大分意味が違つて來てゐる。それは大きく國民經濟國民文化の餘力化といふ事を目ざしてゐるのである。かう云つたとて筆者は人間そのものゝ不合理性を否定するものではない。むしろ、人間の不合理性こそ生活に妙味を與へ、また生きた人間活力を生み出す源泉とすら考へてゐる。故に合理化と云つても其れは素朴にあらゆる生活面を悉く合理的に基準化してしまへと主張するものではない。唯、時間的、物質的又は勞力的に無駄を省かねば進步する社會生活に必要なる教養なり活動なりが得られぬといふ事を見逃してならぬ。

是等の問題について今日世上に見聞する諸々の事實が證明するであらうし、從つて吸々述べるにも當るまい。かう云ふ意味の指導なり統制なりが今後共に必要だといふ事を指摘すればいゝ。さうして戰爭の繼續の有無を問はず、かくして節約せられたる時間、物資並びに勞力が國民生活の向上に向けられる事こそ本當の意味の統制だと考へるのである。

○

その爲めには、さうした統制の具體的な表現も何處に求めるか、筆者は玆に個人的贅澤を排した。戰時下になほ自己の

邸宅庭園を飾り、一人の美服珍肴を恣にして得々たるものあるが如きは實になげかはしき次第であるが、戰後と雖もさうした個人的贅澤は棄て去らる可きである。之れに對して筆者は社會的贅澤を强調したいと思ふ。勿論此の小片で具體的に之れを詳述する事は不可能であるから、單に項目的に止めるが、之れこそ大東亞共榮圈の完成を見た曉に於いても、なほ夢見ることの出來る一つの大理想と自負してゐるのである。

先づ國民保健體位向上に就いての萬全の方途を講ずる事である。之れは今日、人口政策上の要請から見ても決して贅澤な要求とは云へない。併し何故乳幼兒死亡が多かつたり、結核が國民病とも云はれ傳染病が跡を斷つ事がないのか。其處に充分な施設と果敢な斷行と豐富なる資金のない事を意味するならば、之れこそ充分に豪奢に完遂を爲すべきでなからうか。不健康地住宅の撤廢なり、保養所の完備なり醫療施設の充實改善なり、やる可き事頗る多いであらう。若し衞生の事に及ぶならば下水道の改善は焦眉の急であらうし、不良住宅の改善も必要であらうし、上水道の完備普及も緊要である。是等國民總體の事に就いて考ふれば、毫も贅澤でない事をやるのに、到底個人的餘裕を顧みてゐる閑はあるまい。

更に國民教育の事を考へる。教育を高めるといふ事は最も必要であり、其の爲めに教育を贅澤にする必要がある。教育の贅澤といふ事は今迄の有閑的教育を更に贅澤にしろといふのではない。教育機關の增加充實、學用研究用資材の整備、教職員待遇の改善等、之れ又、少額の基金や豫算を以つて支辨し切れぬものがあらう。たゞ斯く贅澤化された教育は吳々も間違のない樣に、本當の意味の教育であらねばならぬ。其處で近來强調せらるゝ錬成教育でなければならぬ。

其の意味で錬成組織の完備も問題になる。教室其の他耐寒耐暑の裝置の必要如何は問題にならうが、筆者の云ふ贅澤な教育と云ふのは震えながら勉强をしない事を意味すると同時に如何なる嚴寒にも耐えるといふ修業をふくませるもので

ある。

若し國民教育に關聯して云ふならば旅行もその一項目である。如何に今日の國民學校兒童、中學校生徒の所謂修學旅行の貧弱な事よ、是等もつと充分なる時間と用意と設備とを以つて行はる可きであらうし、國民精神作興の上から云つても必要であらう。國史上、建國肇國の聖地といひ歷代天皇の聖地といひ全國に遍ねくある。如何に少數の國民しか實際に是等國民教育上の要地を訪れ得ない事よ。國立公園も多い。併し日本國民でそれを訪れ得てゐる者が何人あらうか。是等は恐らく贅澤中の贅澤と云へよう。

更に土木的方面で云へば風水害撲滅も大事業である。雨が降り、風が吹いたと云つて人畜建物又は田圃作物等頻々として被害を受ける。之れらは科學、人力、技術を以つて充分對處し得るものがあらう。それが行はれなかつたのは此の方面への貧困の故である。社會的贅澤としては當然、是等の方面に努力を注ぐ可きであらう。

土木方面で云へば港灣、橋梁、道路、河川いづれも完成すべきものが多い。總括して云へば都市計畫農村計畫に於いてもつと費用を充實して望む可き理想が澤山ある。大都市中央に大綠地を設け、地元兒童に充分なる遊場を與へる事も、今迄の經濟體制では決して容易なことでない。從つて之れらいづれも社會的贅澤として重要な項目である。

國內に充分なる農業を保ち健實なる農民層を確保するといふ事も贅澤の一つと云へる。それは、都會の中央菜園を持つといふのと同じ意味に於いて。

斯くの如く述べ來れば際限がないであらう。玆には其の二、三思ひついたまゝ記したに過ぎない。

○

たゞかうした計畫が決して簡單に安恕として出來るものではない。元來、社會的生產の餘剩は何等かの方法で何等かの使途に用ひられる。その一は、個人に分歸せしめて個人の自由に委ねる事、この場合、個人が賢明ならばそれを社會的用途に供するが、さうでない限り、恐るべき個人的贅澤の原因となる。玆に於いて第二として、個人に一旦歸屬せしむるが、消費指導その他で之れを拘束するのが一つ、更に又何等かの形で全體的なものに取り上げて（租稅、手數料）全體的用途にあてるのが一つ、此の兩方がある。之れに對して最初からさうして餘利を個人に分屬せしめないで全體のものとして處理して行く方法がある。是等はいづれも一概に決定し得るものでないがいづれにせよ、玆に個人的贅澤から社會的贅澤へといふ方向に於いては取らる可き行き方がある。吾々は之れを統制經濟の眞諦を見るのである。

戰後奢侈の横溢については屢〻云はれてゐる。從來のさうした傾向は少くとも我國に關する限り救はれ得てゐた。何故ならば問題が國內に限られてゐたから。今日迄の狀態を古代羅馬帝國滅亡前に比べる人々すらある。併し今迄のところではその心配はなかつた。今後日本の發展が外地に及び其の資源の上に富裕が齎され、その上に個人的榮華に耽ける事になると問題は今迄の樣に簡單でなくなる。誰かローマ帝國の轍を踏まざるものと斷定し得ようか。頗る戒心すべきであり、こゝに一論する所以である。（第八回全國都市問題會議の日）